

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	建築物社会ストック化小委員会	主 査 名：木俣信行
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：仙田 満
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	わが国における建築物が、社会的共通資本として永続的に価値を維持し、国民生活を一定水準以上のレベルで支えることが出来るようになるためには、如何なる対策が必要かを検討し、2003年5月の学会提言をフォローして、社会に具体的行動を促す基とする。	
委員構成 (委員名(所属))	木俣信行(鳥取環境大学)、有川智(国土技術政策総合研究所)、家木成夫(上武大学)、伊藤裕久(東京理科大学)、稲田泰夫(清水建設)、稲垣道子(フェリックス)、岩井光男(三菱地所)、小林重敬(横浜国立大学)、小林成弘(政策投資銀行)、椎名一博(三井不動産)、周藤利一(水資源開発公団)、中村勉(ものづくり大学)、本田広昭(オフィスビル総合研究所)、門内輝行(早稲田大学、京都大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2004 年度予算	85,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会 7 回 (5/17:6、6/21:10、7/23:5、9/13:8、10/25:5、12/6:5、2005/2/28:6、勉強会 1 回開催 (2004/6/21)、見学会 (2005/3/18)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物が良好な社会ストックとなるための条件について、前年度に引続き様々な角度から検討を加えた。 ・ その結果、概ね次のような要件の充足が条件となることを確認した。 <ol style="list-style-type: none"> i. 地域の空間を構築する基本的な建築構造の質的量的充実 ii. 立地周辺への社会資本投資に見合った建築空間の質と量の確保 iii. 地域景観の形成に資する建築物の外装対応 iv. 建築物による地域共有(コモン)空間の形成状況 <p>結論として、単体としての建築物の質と量の確保もさることながら、それらに地域の生活と産業活動を支える社会ストックとしての役割を持たせることが必要であること確認するものであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ またこれらの条件を満たした建築物を、社会全体として蓄積して行くためには、エリアマネジメントの下で地域の空間ストック形成を住民・企業市民の合意の下で進めるための仕組み、さらに優良なストック蓄積を促進する土地利用のための制度など社会システムの整備が必要かつ有効であるとの結論を得た。 ・ 更に、こうした建築物の社会ストック化については市民、取分け資本力のある企業市民の役割が大きいことを確認し、企業の社会的責任の一環としてこの問題を扱う必要があると言う結論を得た。 <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>本年度の目標としては、建築物社会ストック化提言のパンフレットの作成と、出版準備であったが、結果的にパンフレットの原稿作成まで、出版準備については、出版物目次案の作成に留まった。</p>
その他評価すべき事項	<p>本小委員会の議論を踏まえて、環境経営学会が実施している環境経営格付評価システムの中に、企業の社会的責任として「空間ストック形成への貢献」と「地域景観形成への貢献」を組み込み、格付評価を実施している。</p>